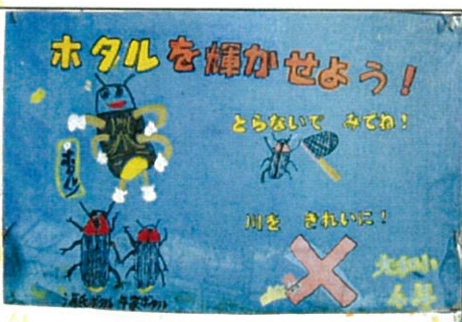
未来に残そう ホタル新聞

発行者
三原市立大和小学校
六年　田治米 玲亜
　　　松川 日和
発行日
平成二十七年一月九日

つなげようホタルの命（いのち）


ホタルを輝かせよう！
とらないで　みてね！
川を　きれいに！
ホタル

ホタルの光　大和の宝へ

私達がホタルを育て、放流してから二年がたちました。平成二十五年四月、町内五校が統合し、大和小学校が誕生しました。私達の活動を見ていた椹梨小学校出身の旧三年生(現五年生)から「自分達もホタルを育てたい」という声が上がり、総合的な学習の一つとして、環境カウンセラーの吉川さん、ホタルボランティアの満汐さん、地元民生委員のみなさんの力をおかりし、大和小の新しいホタル学習がスタートしました。

新たな取り組み

私達が四年生の時に取り組んだ内容(前号の広めようホタルのいのち)以外に、大和小では、六月のホタルかご作り・七月のカワニナの生息地の調査と採取・椋梨川下流(和木)への放流が新しく増えました。統合によって飼育人数と飼育装置が増えたことで、二千匹以上の幼虫が育ちました。

ホタルの保護活動をしている人にインタビュー

地元ホタルボランティア
満汐さん

環境省環境カウンセラー
吉川さん

Ⓠホタルはどこへ放流してもよいのですか？

Ⓐその土地に住んでいるホタルの遺伝子をくるわせてしまうのでしてはいけません。数年飛んでいない事を確認して放流します。どこのホタルを放流したか看板に記入して立てます。

Ⓠ同じ場所にたくさんのホタルを放流してもよいのですか？

Ⓐエサのカワニナがホタルの数より少ないと増えないのでカワニナも増やすとよいです。

ホタル観賞会

私達が初めて放流したホタルの観賞会が、平成二十五年六月九日に開かれました。午後八時ごろゲンジボタルが約百五十匹飛び、手のひらへ乗るほどでした。ホタルの住む環境を守るため前自治会長池田さんへ「川がよごれないように協力をお願いします。」という手紙を渡しました。

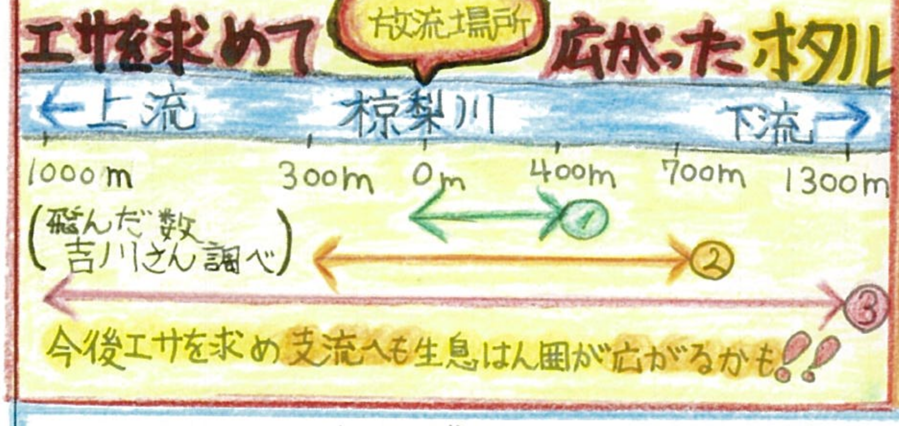
昨年六月十五日、二回目の観賞会が開かれ約百十人の人がホタルの光を楽しみました。

広がるホタルの生息はん囲

放流時期は11～12月

①放流前	飛んでいた数 約140匹
②1年目	約500匹放流 約500匹飛ぶ
③2年目	約500匹放流 約3000匹飛ぶ

※2年目約2000匹は和木へ放流



今後エサを求め支流へも生息はん囲が広がるかも!!

大和のホタル尾道へ

大和小のホタル保護活動の様子を新聞で知った尾道市吉和小より問い合せがあり、吉和川では三年前から一匹もホタルが飛ばなくなったことを知りました。吉和小の新三年生が総合的な学習の時間を使ってホタルについて学ぶため、大和小の四年生が育てたホタルの幼虫約百七十匹が吉和小へ旅立ちました。大和小では二月に四年生から三年生へ、ホタル活動の引き継ぎ式が行われます。これからの吉和小との交流が期待されます。

十五年先の椋梨川

十二月二十七日、椹梨地区自治会長米丸さんへこれまでの協力のお礼を伝え、これからのホタルと地域の関わりについて聞きました。米丸さんは、「椋梨川全域でホタルが飛んでほしい。そのためには、ホタルのエサであるカワニナが必要なので、カワニナを増やすことを考えています。地域計画策定委員会で、ホタル部門を作り、多くの人にホタルを見に来てもらえる地域にしたいです。」と話して下さいました。

米丸さんの家の近くのカワニナのいる農業用水路。

編集後記

私は、ホタルを通じて、学校と地域が一つになり、ホタルにも人間にも住みやすい場所になるように協力をしていきたいです。また今、一年生の妹にも、この活動が続けられるようにしていきたいと思いました。(田治米)

私はこの新聞を書いて約三年でホタルが増えたことにおどろきました。そしてとなりの尾道市に広がっていて自分達がホタル活動をしてきてよかったです。これからもホタルについてたくさんの人達に伝えたいです。(松川)

第7回ECO壁新聞コンクール
全国銀行協会、朝日小学生新聞、朝日新聞社